



2024年度 ジュマ・ネット年次報告書

Annual Report 2024

Jumma Net

ジュマ・ネットとは	1
2024年のチッタゴン丘陵地帯	2
バングラデシュ7月革命とチッタゴン丘陵地帯	3
ジュマの若者活動家ネットワーク構築	5
キャリア教育支援活動	6
紛争・内紛被害児童教育支援活動	7
国内事業活動	9
財務会計報告	10

ジュマ・ネットとは

ジュマ・ネットは、バングラデシュ・チッタゴン丘陵地帯の民族対立解決と平和促進に取り組む日本のNGOです。2003年に設立されました。「ジュマ」とは、チッタゴン丘陵地帯に住むモンゴロイド系少数民族の総称であり、ベンガル語で「焼畑を行う人」という意味を持ちます。

「すべての抑圧されるエスニック・マイノリティのために」を合い言葉に、誰もが公正で安心して生きられる社会づくりをめざします。



主なプロジェクト実施地域

- 1 バングラデシュ・チッタゴン丘陵地帯**
国土の10%ほどを占め、ジュマと呼ばれる11の民族が暮らす。内戦後も抑圧や人権侵害が続く。
- 2 インド・アッサム州**
インド北東部の州。英領植民地時代やバングラデシュ独立戦争時にベンガル人の移動が起こっており、政治的争点となっている。
- 3 インド・ミゾラム州**
バングラデシュとミャンマーに接する地域。ほとんどが山岳地帯で、ミゾと呼ばれる少数民族がマジョリティを占める。

チッタゴン丘陵地帯とは



チッタゴン丘陵地帯（Chittagong Hill Tracts）は、バングラデシュ南東部に位置する地域です。500m前後のなだらかな山がつづいており、インドのミゾラム州、ミャンマーのラカイン州と国境を接しています。

この地域には、約90万人のジュマが住んでおり、独自の慣習や文化が営まれてきました。また、伝統的に行われてきた焼畑農業が今日も続けられています。

2024年のチッタゴン丘陵地帯

2024年のバングラデシュは、激動の年でした。それはまさに歴史が動いた瞬間であり、新たな民主主義への船出でもあります。一方、チッタゴン丘陵地帯では依然として厳しい状況が続いており、当地の根本的な政治構造は変化していないことが懸念されています。

バングラデシュ・チッタゴン丘陵地帯の主な出来事

2024年4月

- ▶ KNA（クキ・チン民族軍）が銀行強盗、軍による一斉逮捕へ

2024年7月

- ▶ 学生デモがダッカを中心に活発化、やがて全国へ拡大
- ▶ チッタゴン丘陵地帯でもデモによる学校閉鎖など大きな影響
- ▶ 外務省はバングラデシュの危険情報をレベル2に引き上げ

2024年8月

- ▶ ハシナ首相退任、インドへ国外逃亡
- ▶ バングラデシュで洪水が発生

2024年9月

- ▶ チッタゴン丘陵地帯でベンガル人とジュマのグループが衝突し、4名のジュマが死亡
- ▶ 当地域で再び戒厳令（外出禁止令）が発出

2025年1月

- ▶ 教科書の「先住民族」の表現をめぐりダッカで衝突事件が発生、9名のジュマが負傷
- ▶ 和平協定監視委員会の再結成



写真で振り返るバングラデシュ、チッタゴン丘陵地帯

学生デモによりダッカの街が機能停止に陥る

7月中旬頃からは毎日デモが活発に行われ、道路封鎖や交差点での抗議活動などがあちこちで発生した。



9月の衝突事件に対して抗議集会が開かれる

2024年9月に発生した衝突事件直後、ダッカではジュマの学生や若者が集い、街中で抗議集会を開いた。



Bangladesh 7月革命とチッタゴン丘陵地帯

2024年7月。Bangladesh全土で発生した大規模デモ、それを鎮圧する治安部隊の発砲、突然のハシナ首相のインドへの亡命。14年続いたアワミ連盟政権が、がらがらと音をたてて崩れ去った。独裁的だったこの政党の終焉を多くの国民が喜び、ユヌース氏を頂点する暫定政権がスタートした。

チッタゴン丘陵地帯の人々は、この政治変動をどう思い、どう動いたのか。もう1年が経とうしている現在、私の答えは「残念な1年だった」と評価せざるを得ない。

残念な二つの事件

まず7月の政変後、二つの残念な事件があった。

2024年9月18日。チッタゴン丘陵地帯のカグラチャリ県で、ベンガル人青年がオートバイを盗んだためジュマの群衆に暴行を加えられ、逃走中、事故で死亡する事件が発生した。これに抗議したベンガル人青年たちのデモが、ジュマの店や家屋を破壊、放火する暴動に変わった。同夜、ジュマ側もストライキを実施して道路封鎖をし、緊迫した状態となった。20日にはこれがランガマティ市にも飛び火し、政府は集会禁止令を発令した。結果、4名の死亡、数十名の負傷者が出る事件となった。「新しい時代が来るかもしれない」といった淡い期待が、吹き飛んだ事件だった。

もう一つは、2025年1月14日、ダッカで起きた。同年13日、国家課程・教科書委員会(NCTB)が、9・10年生のベンガル語文法・文章読本の裏表紙から「Adivasi(先住民族)」という言葉を含む図を削除することを決定した。これに対して14日、先住民族の青年たちが抗議活動をNCTBの前で行った。しかし、これに対して「先住民族」は反国家的と考える政治グループ、そして警察らが激しく攻撃し、20名以上が負傷する事件となった。

この二つの事件は、新たな暫定政権になっても、差別構造はまったく変わっておらず、暫定政権の弱い治安力のエアポケットで発生した事件だった。

置き去りのままのチッタゴン丘陵地帯の政治課題

チッタゴン丘陵地帯の人々が、望む多くの政治課題はどうなのだろうか。
例えば「和平協定の完全実施」「憲法における先住民族の認知」「土地問題の解決」「ベンガル入植者の域外移住」「軍の基地の撤退」など、長年にわたって交渉してきた課題だ。

現在の暫定政権は、ユヌース氏の息がかかった人物が多く、リベラルで民主的なリーダーが多い。このことを評価する声もある。しかし、暫定政権は、多くの利害関係者の調整ができず、選挙日も決められない状態である。暫定政権のユヌース主席がいずれ辞職するのではないか、といった噂が巷では話題になる状況だ。このような政治状況の中で、難易度の高いチッタゴン丘陵地帯の政治課題を扱うことは絶望的だ。多くのチッタゴン丘陵地帯の人々は、現状から新しい成果を得るのは難しいと、寡黙に政治状況を眺めている。

これからの未来のために

チッタゴン丘陵地帯の問題解決のタイミングが今ではないことは明白である。

しかし、将来のためにジュマ・ネットとして、考えていることがある。それを簡単に言うならば「将来の政治交渉のために、今後10年間でジュマの人々の交渉能力をどう高めるか」である。

過去10年間、ジュマ側の政治交渉力がどんどん落ちていった。それは、「ジュマ政党間の対立と抗争」のためだ。「自分たちは間違っていない」と譲らず、頑なに対立を続けている。もう一つは、高齢化したリーダーと若者世代とのギャップである。年配リーダーがつくった内紛イデオロギーの呪縛が、若者の自由な発想や発言を封じこめている。

この構造から離れ、若者による新たなネットワークづくり、意見交換の場づくりができないかとジュマ・ネットは模索している。今年度実施予定の、バングラデシュ、チッタゴン丘陵地帯の若者、インド・ミゾラム州の若者、日本の若者たちの「平和のための対話と旅」の企画もその一つだ。

対立の中心にいない第三者だからこそできること。それを現地の文脈に合わせて、静かにかわっていけることから、あきらめずに挑戦していきたい。

ジュマ・ネット 共同代表
下澤 嶽



海外事業報告 対話からはじめる新たな平和 ジュマの若者活動家ネットワーク構築

和平協定後のチッタゴン丘陵地帯でつづく事件や人権侵害、さらにジュマ内部の抗争に対する新たな平和促進アプローチとして、ジュマの若手リーダー層との関係構築や対話を行っています。当事者であるジュマの若手リーダーたちが、これまでの固定化した関係性やナラティブに囚われず、自身の手で平和を担っていく動きをサポートします。

2024年度は、PCJSS（チッタゴン丘陵人民連帯協会）やUPDF（統一人民民主戦線）など少数民族政党だけでなく、学生プラットフォームや在外ジュマなど、幅広い若手リーダー層からのヒアリングや連携を行いました。政党に所属する若手リーダー層は、政変前後や2024年9月の暴動事件の際には所属を超えて部分的な連携に踏み出したものの、関係の変容にはまだまだ大きな壁があることがわかりました。また、2024年9月に発生した事件により自然発生的に生まれた学生中心のプラットフォームは、既存政党から独立した新たな動きを見せています。上意下達の指揮系統を意識的に作らず、民主主義を求める若者が集った運動体であることが特徴的です。加えて、既存政党や利害関係の存在を否定したり対立したりするわけではなく、ニュートラルな距離を保つことを意識していることから、ジュマの内部抗争には関与しないものの、一方で必要が生じた際には政党と適度な距離感のもとで関われる可能性も残しています。



PCJSSの若手リーダーとの対話（2024年7月 ダッカにて）

2025年度はこれまで蓄積した関係性を活かし、異なるバックグラウンドを持つジュマの若手同士による、日本とバングラデシュを共に訪れるスタディツアーを行います。ツアーにおいては、平和やマイノリティに関する歴史を学んだり、活動家や専門家等との意見交換を行います。所属や利害を超えた対話や学び合いを生み出し、長期的な関係性の変容や新たな取り組みをサポートします。

チッタゴン丘陵地帯の内部分裂と抗争

1997年の和平協定以降、その内容に不満を呈するグループがPCJSSから分裂した。そのグループはUPDFと名乗り、チッタゴン丘陵地帯の完全自治を標榜した。両組織は事実上の敵対関係に陥り、互いに誘拐や殺傷事件を繰り返している。2000年代以降にも各組織からさらに分派が生まれた。また、2021年にはジュマの主流派を占めるチャクマ族に対する抵抗を目的として掲げるKNA（クキ・チン・民族軍）が突如活発化しており、2025年時点でジュマの政治勢力は主なものだけでも6つ以上に分かれている。



UPDFの若手リーダーらとの対話（2024年11月 ダッカにて）

キャリア教育支援活動

2023年度から新たに開始したキャリア教育支援活動は、教育支援活動でサポートしている生徒の将来を切り拓くことを目的としてスタートしました。バングラデシュ国内での就職機会の創出や、将来的には日本での就職も視野に含め、可能性を広げるための取り組みを行なっています。

日本に行きたい ― 子どもたちの夢を支えて ―

ジュマ・ネットは、これまで100名を超える紛争被害児童・生徒の「就学」を支援してきました。しかし、「就職」の支援はしてきませんでした。

バングラデシュは、学歴が高くなるほど失業率が高くなる傾向があります。学歴にみあった仕事が極めて少ないからです。僻地であるチッタゴン丘陵地帯はなおさらです。

2007年に最初に支援した3名の児童・生徒がいました。その後連絡をとったところ、一人はなんとかNGOに就職しました。しかし、もう一人の女性は実家で暮らし、結婚もできず、おりおり失踪するなどの問題を起こしています。最後の一人の男性は、なんとジュマ政党の幹部となり活躍している（つまり対立の最前線にいる）というのです。教育の力だけではなんともしがたいものがあるだけでなく、また「対立の泥沼」に引き込まれてしまう若者がいたことは、非常にショックでした。



これまで、叔母が親に代わりノンディニを育ててきた（写真右）

ことしジュマ・ネットが教育支援しているノンディニ・チャクマから「日本に行きたいです」と打ち明けられました。介護の仕事がしたいと言うのです。彼女は12年生を卒業したばかりです。お父さんは内紛で殺害され、お母さんはその後死亡しています。チッタゴン丘陵地帯でも最近では技能実習生、特定技能で日本に行く若者が出始めており、ノンディニはその情報に関心を持つようになったのです。ジュマ・ネットが以前教育支援したショバラニ・チャクマという女性が、最近この制度で日本に行くことに決まったばかりでした。彼女はジュマ・ネットの支援を借りず、自力でこれを達成したのです。



日本への機会を自ら切り拓いたショバラニ（写真中央）

ジュマ・ネットとしては、ノンディニにまず日本語のコースに参加するための費用の部分負担を了解しました。彼女は今、日本に行くことを夢見て、毎日日本語の勉強をしています。現在の技能実習生制度、特定技能制度はいくつかの問題をはらんでいると思います。内部で慎重に議論したのち、彼女の派遣とその支援の是非を議論していく予定です。

チッタゴン丘陵地帯の日本語学校に訪問し、選定委員会の設立に着手

日本への送り出しや就職の高まりを受け、ランガマティ県、バンドルバン県で日本語学校が運営されていることが新たにわかりました。そこで、2024年7月にはランガマティ県のTechnical Training Centre（国営の職業訓練校）を訪問しました。40名ほどの学生が学んでおり、熱気あふれる教室の雰囲気が印象的でした。また、2025年2月にはバンドルバン県で民間運営されている日本語学校にも訪問しました。こちらでも日本を目指す若者たちが学んでおり、日本への就労への機運がバングラデシュ国内にて日々高まっていることを強く感じました。

そこで、ジュマ・ネットはチッタゴン丘陵地帯3県の有志を集め、委員会を設立しました。バングラデシュ国内の日系企業への就職や、日本への就労をサポートするための制度構築の準備が始まっています。



ランガマティ県で日本語を学ぶ若者たち



バンドルバン県で日本語学校を運営するハンハン氏

紛争・内紛被害児童教育支援活動

チッタゴン丘陵地帯の紛争や内部抗争による被害にあった子どもたちを中心に、2007年からモノゴール寄宿舎学校と連携して教育支援活動を実施しています。現地の少数民族寄宿舎学校と連携し、寮の生活費や授業料、文房具の購入費を支援しています。2024年度は13名の児童・生徒の支援を継続しました。



ルシャ・チャクマ

得意な科目は国語です。いつも友達となわとびをしています。お肉が大好きで、お正月には家に帰り、お腹いっぱい食べました。



モンプリ・チャクマ

サッカーとバドミントンが大好きです。ダンスも大好きで、よく踊ります。最初はモノゴールに来て悲しかったけど、今は楽しいです。



ジュエル・チャクマ

モノゴールにすることが好きです。サッカーや算数が得意です。大きくなったら、仕事をして家族を助けたいです。最近、転んで額にけがをしました。



オジェン・トリブラ

英語が得意で、サッカーが大好きです。いつか学校の先生になりたいです。ここに来て5年になり、友達がたくさんできました。高等教育資格試験には自信があります。



ルヘル・チャクマ

国語が好きな2年生です。サッカーが得意です。家にはお姉さんが二人おり、帰った時にはお母さんがやさしくしてくれたことが思い出に残っています。



トウンプレム・ムロ

2021年からモノゴールで生活しています。絵を描くことや、科学が好きです。17歳になりました。将来は医者になりたいです。



ウチョシン・マルマ

お父さんが亡くなって2年が経ちますが、今でもときどき思い出します。英語やサッカーが好きです。しっかり勉強するようにとお母さんに言われました。



メンワイ・ムロ

ここにきて4年目になります。両親が亡くなったため、今は家に戻ってはいません。7月に発表される試験結果を待っています。コンピュータの勉強をしたいです。



ボンワイ・ムロ

モノゴールに来て4年が経ちました。生活にも慣れたし、友達も来てたので、ここにいるのが楽しいです。サッカーと英語が好きです。お正月には鶏肉をたくさん食べました。



イティモニ・チャクマ

人文科学を勉強し、高等教育資格試験が終了しました。以前は警察官になりたいと思っていましたが、今は将来の夢に迷っています。



メモチ・チャクマ

お父さんがいませんが、正月に家に帰ったときには、お母さんがお腹いっぱい鶏肉を食べさせ、きれいな服を買ってくれました。チョコレートが好きです。



ノンディニ・チャクマ

モノゴールに来て4年目で、親戚の家から通っています。カレッジの試験を受けています。いつか日本で働きたいという夢があり、日本語学校に通っています。



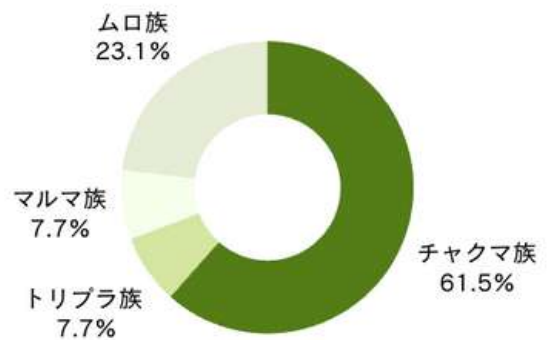
トウンパ・チャクマ

モノゴールへ来て6年目です。科学が好きです。将来は、銀行に関わる仕事に就きたいと思っています。

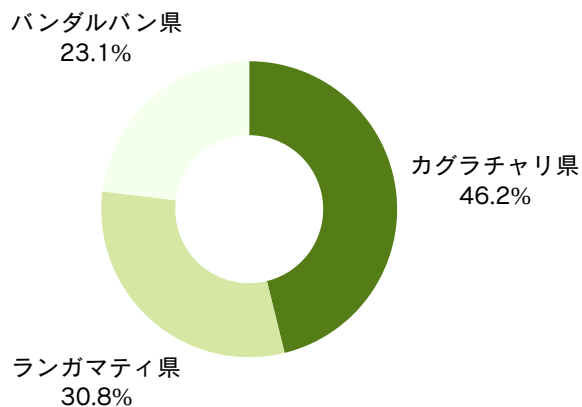
児童・生徒の学年

学年	人数（人）
1年生	1
4年生	2
6年生	1
7年生	2
9年生	2
10年生	1
中等教育試験受験生	2
12年生	2
合計	13

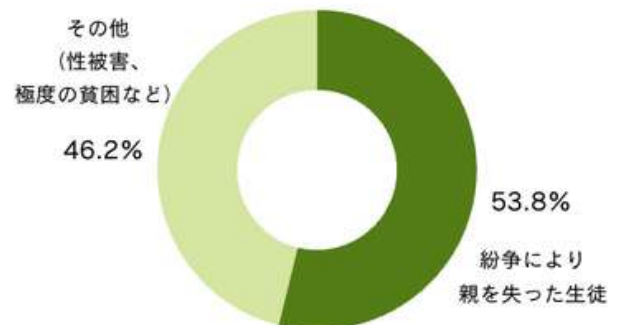
児童・生徒の民族



児童・生徒の出身地



児童・生徒の背景や経緯



心理調査

紛争被害を経験した児童・生徒においては、学習に必要な心理的な安全・安心の欠如や、トラウマに近い精神的ショックを抱えている可能性が高いことに懸念を抱いております。それは、学習成績に影響を与えるだけでなく、自立し、希望を持てる人生の実現にも影響を及ぼすと考えられます。そこで、支援児童・生徒に対する簡易的な心理調査を行いました。特に低学年の児童に関しては言語の壁が存在し、安心安全な環境を確保することなど、いくつかの改善点もみられました。これらを学びとして活かしながら、試行錯誤を続けて参ります。



ピクニック

スタッフがモノゴール寄宿舎学校を訪問した際には、支援児童・生徒とピクニックに出かけることがあります。子どもたちにとってはとても楽しみにしているイベントの一つであり、前日からソワソワしている子どももいるほどでした。当日はそれぞれお気に入りの洋服を着て参加していました。山頂からの景色に目を輝かせる姿や、途中で立ち寄ったレストランでご飯を何度もおかわりする様子が印象的でした。

日頃の勉強や生活から少し距離をおき、それぞれにとって楽しい時間を過ごすことができました。





国内事業報告 知る、つながる、ともに歩む

国内事業活動

2024年度は、日本国内にてチッタゴン丘陵地帯の実態を広く発信する活動にも取り組みました。民族対立や紛争などをテーマにしたオンライン勉強会や、大学等での講演会を実施しました。また、他団体とのコラボイベントも開催し、これまで以上に多くの人々に伝えることにフォーカスしました。

8月には学生デモの最新状況を伝える緊急報告会を実施したり、新たなテーマとして在日ジュマの若者との共同開催イベントを実施したりするなど、政治状況のみならず、チッタゴン丘陵地帯の文化紹介や、日本における生活の様子なども取り上げました。開催したイベントのいくつかは、ジュマ・ネットYouTubeチャンネルにて公開しております。

ジュマ・ネット YouTubeチャンネルはこちら！



開催事例 ①

緊急帰国報告会（8月）

2024年7月から8月にかけて発生した学生デモは、バングラデシュに新たな歴史をもたらしました。その際、稲川が現地に滞在しており、日を追うごとにダイナミックに変化していく情勢を記録していました。

そこで、帰国直後の8月にオンラインにて緊急報告会を開催しました。日本国内では最も早く学生デモに関する情報公開を行なった会の一つであり、70名の市民や専門家の方々にご参加いただきました。当日の内容はYouTubeでも公開されておりますので、ぜひご覧ください。



開催事例 ②

在日ジュマの若者と語る！（3月）

これまで、日本で生活するジュマの人々をテーマにした取り組みを行うことはほとんどありませんでした。そこで、在日ジュマの若者をゲストにお呼びし、チッタゴン丘陵地帯の紹介や日本での生活の様子をお話いただきました。

日本をめざして熱心に日本語に取り組んできたことや、来日のためにさまざまな努力を積み重ねてきたことが共有され、参加者との質疑応答も活気あふれる時間でした。

同じ平和をめざす仲間として連帯していくことの重要性を改めて確認した時間でした。



2024年度 活動計算書

【税込】単位：円

2024年度 (2024年4月1日～2025年3月31日)	
科目	金額
経常収支の部	
経常収入	
受取会費	232,000
受取寄付金	1,459,643
受取助成金	1,150,000
販売収入	39,500
謝金	55,000
受取利息収入	778
経常収入 計	2,936,921
事業費	
海外事業費	672,669
旅費交通費	214,753
消耗品費	0
支払い手数料	8,250
印刷製本費	0
販売事業仕入	51,380
当期事業費	1,023,352
計	1,023,352
事業費 計	1,023,352
管理費	
人件費	1,457,900
通信運搬費	10,810
印刷製本費	1,335
賃賃料	47,966
支払手数料	18,370
地代・家賃	6,000
会議費	160
雑費	10,000
管理費 計	1,552,541
支出合計	2,575,893
経常収支差額	361,028
前期繰越収支差額	6,257,526
次期繰越収支差額	6,618,554

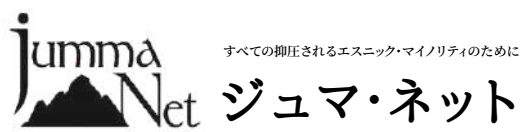
ご支援、助成をいただいた法人の皆様（敬称略）

WE21ジャパン地域団体
全国友の会中央部・各支部

2024年度 貸借対照表

【税込】単位：円

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産		流動負債	
現金	36,011	仮受金	0
当座預金	4,663,144	流動負債 計	0
普通預金	1,266,412	負債の部合計	0
現金・預金 計	5,965,567	正味財産の部	
		正味財産	
その他流動資産	0	正味財産	3,005,326
仮払金	288	（うち当期正味財産増加額）	2,781,548
貸倒引当金	△178,981	正味財産 計	5,786,874
流動資産合計	5,786,874	正味財産の部合計	5,786,874
資産の部合計	5,786,874	負債・正味財産の部合計	5,786,874



団体名	ジュマ・ネット
住所	〒132-0033 東京都江戸川区東小松川3-35-13-204 小松川市民ファーム内
メール	info@jummanet.org
電話	03-3655-1005
理事	下澤 嶽 トム・エスキルセン 安達 淳哉 木村 真希子 日下部 尚徳
監事	今村 公保 井口 由美子